

「ただひたすらに自らを磨け」

先日、さのっちからファミリー宛てにメールが送られてきました。そこには、「大学准教授としての仕事が来年の3月で終了することになり、ショックを受けています。今後どうするのかを考えているところですが、木の花でみんなと暮らして楽をするよりも、東京という経済的にも厳しい環境でチャレンジしていくことの方がより自分を鍛えられるのかなとも思っています」と書いてありました。数日後さのっちが帰省した際、さのっちの希望によりいさどんと面談する機会が持たれました。

さのっち：

今回のことはすごくショックでした。通常1年毎の更新で最長5年働けるという契約でしたから、あと2年は働けるという前提のもとで動いていたのです。自分の中で裏切られたような感情が湧いてきて辛かったです。

そのことを知らされてから1週間が過ぎた今は、大きな学びが与えられているのだと思っています。この2年半大学で仕事をする中で、いかに自分が大学教員という地位に執着して酔いしれていたのか、ということが痛いほどわかりました。だから、自分と一体化していたものと引き放されるような痛みを感じていたのですが、今までいさどんたちが伝えてくれていたことが今やっと肌身にしみました（一同、笑）。

自分にとって大切なものがなくなると一番よく気づけるので、一番効果がある形で気づきが与えられたと思っています。

いさどん：

以前から、「そんなことならメンバーをやめたら？」とさのっちは言われてきたけれど、メンバーという立場がなくなると、あることの価値がわかるのと同じことだよ。ただ、私たちは自分たちの利益のためにそういうことを言っているわけではないし、ここをやっているわけではない。さのっちが成長するとか、私たちの活動が世の中のためになるという意味でそういうことを伝えてきた。

今までさのっちはみんなの言うことを理解出来ないどころか、「みんなが意地悪で言っているのではないか」と悪意的に受け取るようなところがあった。それは見えている側から伝えている話で、さのっちの中に客観的に自分を振り返る視点があれば、今回のことの原因はわかるはず。今までも僕はさのっちに伝えたことがあったけれど、これは学生からの評価が低いことが一番大きい。その次に、大学のための授業ではなくてさのっち個人のための授業に走っているということ。つまり、さのっちは大学側が求めているニーズに応えるのではなくて、さのっち個人がやりたいことに大学という場所を活かしているんだよ。本来は、向こうのニーズを完全に満たした上でこちらのやりたいことをやると、満たしたことのプラスアル

ファになる。ところが、向こうの要求を満たさないでこちらの好き勝手なことだけをやると、プラスアルファにならずにマイナスになるんだよ。「やるべきことをやらないで、こんなことばかりやっている！」ということになるわけだ。それが他者からの自分に対する評価であり、自分ももたらしているものであるということが全然わかっていない。

この間の話も（詳しくは、いさどんブログ「道は一つ、心は一つ」をご参照ください）同じことだよ。さのっちはこの恩恵を沢山受けているということを全然わかっていない。さのっちが自分の立場を崩しそうになった時に、いつでもここはさのっちの姿勢を改め調整してきた。しかし、さのっちは修正しないで進むものだから、「ここと縁を切って一般社会で生きてごらんよ。恩恵の部分がなくなったら、問題事が沢山起きてきて自分でその大切に気づくはずだから」と前回も伝えた。

この前たけちゃんがここに来た時に、細かい話は知らないけれど、「さのっちも困ったものだな。一回話し合わないといけないな」と言っていた。たけちゃんから見ると、さのっちは大事な仲間で親しい関係だけれど、色々な意味で困ったものだと思っている。たけちゃんが直接物理的、精神的に何か迷惑をこうむっているということではない。しかし、たけちゃんはさのっちを近い人間として大事に想っているから、さのっちは生き方が下手だなという意味で困ったと言っている。たけちゃんはその時に聴いたコンサートの感想で、「いさどんは僕の眼鏡だと思う。この眼鏡を外したらものが見えない自分がいる。しかし、いさどんという眼鏡があるおかげで自分は正しくものが見えるから、ありがたい」と言っていた。僕はその言葉を聞いて、おごった心は全然ないけれど、たけちゃんは大事なものを大事として評価する心があると感じた。今後たけちゃんがどういう生き方をしても大きく転ぶことはないだろう。しかし、さのっちは転んでからでないといけないというのが今回の答えだ。

僕が一番伝えたいのは、転んでから、答えが出てからそれがわかるようなことではいけない。それも向こうに「なぜですか？」と聞いてみて、向こうが言わなければ全然わからないというのは、あまりにも自分の側からしかものを見ていない証拠だよ。

さのっち：  
いさどんの言う通りだなと思いました。

いさどん：  
ものが観えるというのは、そこにいなくても観えるわけだよ。だから、これこそ神様の計らいであると思う。僕はさのっちが大学にいることだけがさのっちの人生にとって重要なことだとは思わない。それよりも大事なものは、今後精神をどのように育てていくのか、これからどう生きていくのかということだ。今まで大学の准教授だったからと云って、大学は学生が少なくなって教授があまりいなくなるのだから、他の大学で働くというのも大変だよ。賢明なことをつかむ心を持つということと、自分の意識が強すぎると大事を見失ってしまう

というのが今回の話だ。

ところで、さのっちは今後どうするの？

さのっち：

今の気持ちとしては、ここに住むのがいいのかなと思っています。

いさどん：

さのっちはメールで「東京にいて厳しい道を選ぶか、木の花に来て楽な道を選ぶか。僕はどうしても楽な道を選んでしまうから、東京にいることを選ぶ方がいいのかな」と言っていた。

さのっち：

はい、そういう気持ちがあると書きました。

いさどん：

そこで僕が想うのは、さのっちは見当違いもはなはだしいってことだ。東京でさのっ치가アルバイトをしようがどうしようが、それはあなたを学ばせない道だから、さのっちにとっては気ままで楽な道だよ。それは物理的には多少きついかもしれないけれど、心にはすごく気楽な道だ。ところが、今のさのっ치가ここにきてどれほどここで矯正されるのかということからしたら、厳しいのはこの道の方で、厳しくない道は東京にいることなんだよ。さのっちはそれを反対に取っている。それくらい僕とあなたの見解は違っている。そういう形でここを選ぶさのっ치를、僕はあまり歓迎出来ないと思っている。みんなのように覚悟が出来ていないのだから。

みんながどれほど真剣に日々ファミリーメンバーであるということを語り合っているか。ここは将来に対して不安のない本当に素晴らしい場所だよ。しかし、ここにいることが楽だからそれでいいのかといたら、ここにいることにふさわしい人間になるためにみんながどれほど真剣に魂を磨いているのか。それくらい真剣に清らかな心を目指している人間じゃないとここにいられない、ということさのっちは理解していないと思う。

ようこ：

ここは消去法で来るところじゃないよね。

いさどん：

ここは人によっては厳しいところだよ。しかし、人によっては素晴らしい天国だ。最近、評価はうなぎ昇りに高い。それは、マスコミに出てただ沢山の人に知られているとか、表面的なことただブームのように評価されているのではなくて、ひとりひとりが本当に吟味した結果、「これが本物だ！」というところで評価されている。この評価は色があせないものだ

よ。ブームみたいにすぐに色あせるものとは違う、確実な積み重ねがここにはある。そのあたりが、さのっちがまだ未熟でものが観えていないところだ。

みんなの中には共通性があってそれで統率が取れているわけだけれど、そこから見たらさのっちは外れている。今までもこのメンバーだと言っていたけれど、「あっちの価値観もいいと思う」とか「そっちの価値観もいいんじゃないか」と根なし草のようにふらふらしてきた。結局、自分の心の中から湧き出してくる衝動を満たすことが自分にとって大事だと思っている。衝動的に湧き出るものはそれを吟味し、自己コントロールの中で叶えるものは叶える、打ち消すものは打ち消すという対象でないといけないのに、さのっちは湧き出てきたものを全部叶えることが豊かさのように思っている。世の中の人たちの多くはその段階にいる。つまり、自分の中から優れたものが湧き出してくる人間になること、それを目指していく大切さにまだ気づいていない。

ここにはそのことに気づいた人が語り、そのことに気づいて共鳴する人たちがこうやって集ってきている。さのっちにもこうやって縁があるから伝える。しかし、そのことが理解出来ない、それを大切だと意識しない人間にやれとは言わない。それは人それぞれの生き方だから自由だ。しかし、さのっちはそのことがわかって初めて、このメンバーだと言えるんだよ。このメンバーであるということは、自分にとって楽なところを見つけて自分の受け皿探しのためにここにいるのではない。このメンバーであるということは、さのっちという人間がひとりここに加わって、さのっち分だけここが大きくなって成長し進化するということなんだよ。キャパの広い包容力のある母性本能豊富なお母さんがいて、子どもが失敗したら「かわいそうに、私が助けてあげるから」と言って甘えさせてくれるようなところに来ると思ったら大きな勘違いだ。ここにふさわしい人格者になって、さのっちの能力は高いのだからそれをここにもたらして、ここをさらにさのっち分だけ進化させる。実はさのっち分だけ進化するということはさのっちがプラスされたのではなくて、さのっちプラスプラスアルファということ。10人でやっていて11人になるということは、さのっち分1プラスになったのではなくて、11人で表現するというプラスがあるんだよ。

さのっち：  
ひとり分豊かになるということですよ。

いさどん：  
ひとり分豊かになる以上に豊かになるんだよ。ひとり多くなればなるほど、この場所を調和させるのは難しくなる。しかし、それを見事に調和させることが出来たら、そこにもうひとつ別の実績が出来るわけだ。だから、10人が調和していることに対して20人になったら、倍の調和があるのかといったら、これは4倍も5倍も調和の精神がないと保たれない。アパートでひとり暮らしをしていたら、誰ともケンカになることはない。しかし、自分との不調和が起きる。これはひとり分じゃなくてふたり分だ。しかし、ふたりになると自分の中の

ふたり分と相手のふたり分と 4 人分になる。そうやって単なる倍ではなくて、もっと大きな実績がそこに残るわけだよ。わがまま勝手な人が親と住んでいて引きこもりになったとする。その人が結婚して子どもを設け家庭生活を上手くやろうとしたら、人が集まれば集まるほど問題事が比例ではなくて二乗のように増えていくものかもしれないよ。問題事は人が増えれば増えるほど複雑になっていくものだから。

だから、そこにひとり増えてその人間の能力がプラスされるだけではなくて、ひとり増えた分だけそのコミュニティが健全に成り立っているという実績がそこに出来る。それほどひとりひとりの存在というのは大きいんだよ。そういう考え方でここが成り立っているということがさのっちはわかっていない。

それともうひとつ。「今まではメンバーだから特別な立場を許された」という表現の仕方もある。メンバーであるけれど一緒に暮らすにはまだ未熟だから、メンバーでありながらそういう特殊な形で保護されていた」とも言える。自分にとって都合の良い評価があるばかりではない。どちらにしても、あなたの強い決意がないと、「さのっちは何のためにここに居るの?」と言われるよ。僕としては、さのっちがここに住むというのは今のところイメージが湧かない。イメージが湧くとしたら、ここに住むのにふさわしい人格者だと認められた時にイメージが湧くのだと思う。誰かが言っていたのは、「大学に居ることよりも、このメンバーに居ることの方がずっと価値があってそちらの方を評価しないとイケないのに、さのっちは大学に居ることの方を高く評価しているからあんなことになるんだよね」と言っていて、それも当たっていると思う。

ここは大学の先生たちとも深い関わりがあって、彼らは自分たちの出来ないことがここにあると評価している。元大学教授のエリーは、最近もとの高い能力を取り戻し目覚ましい成長を遂げていて、今は学生の頃のように成長していると思っている。今までずっと大学のエリートコースを歩んできて偏った成長をしてきたけれど、その偏りが取れバランスを取るために一気に成長し出していると感じている。あの年齢になってうつ病み上がりで、あれだけエネルギーに成長出来るとしたら、さのっちはまだ若いんだから！でも、さのっちをぱっと見ると老けている。老けていて目が観えない状態だよ。さのっちのやっていることは表面的には華々しそうに観えても、感覚的な評価からすると老けていると思う。

さのっち：

老けているという評価なのですね。未熟とは違うのですか？

いさどん：

老けているというのは、成長が止まっているということだよ。若いうちは新陳代謝が激しいからどんどん成長していく。幼児たちはどんどん成長していくから魅力的だよ。しかし、さのっちは表面的なことを求め、やりたいことを沢山やっていて動きは活発みただけだけど、

人間的な変化は全然見られない。一年前のあなたも二年前のあなたも似たような人がそこにいるんだよ。僕は同じようなことをいつも言っているようだけれど、すごく成長しているし進化しているよ。深みが全然違う。ここの人はみんなそうさ。だから、それこそ一ヶ月もここに来ないと、「ここの雰囲気は全然違いますね」とか「みんなの意識が変わっていますね」と言われる。さのっちは自分がメンバーだと言っているだけで、相変わらずさのっちをやっているという話だよ。僕も相変わらずいさどんをやっているし、ようこちゃんもようこちゃんをやっているけれど、それは成長し進化しているいさどんやようこちゃん、みんなもそう。しかし、さのっちはいつも同じところにて、「さのっちはいつまでそこにいるの?」と聞かれても、さのっちは「僕は僕で生きがいを持って世の中のためにやっているから」と答えるんだよ。「さのっちはいつまでその価値観でやっているの?」と聞くと、「いやいや、僕は生きがいを持って世の中のために」と同じことを繰り返し言っているようなものだ。

ようこ：

それもここのつながりがなければ、それさえも出来ていなかったという話だよ。

いさどん：

そう。だから、「ここの功績があるから、さのっちは今の状態を維持出来ている」と伝えてきたけれど、さのっちにはそのことがあまりピンと来ていない。ここで心の調整をしてもらっていることを評価出来ていない。ものが観えていないということだよ。そのあたりを受けてさのっちはどう考えるのか。

僕の感覚からすると、この肉体を与えてこの世界に生をもたらした方は私をどのように使われようとしているのか。「私は肉体を持ってこの目を持っているがゆえに私の未来を見ることが出来ませんが、少なくともあなたが善意を持ってこの世界に私を降ろし、そしてあなたの善意のもとに私を使おうとしておられるのだから、あなたの意志が私を通して何をもたらそうとしておられるのか、ぜひ見てみたいです。ですから、いただいたこの道を歩んでいきます」というのが僕のスタンス。自分の望みをそこでは持たずに、自分のすべてをそこに委ねる。この世界にはそういう人もいる。「ああしたい、こうしたい」という自分の我から解放されて、自由になっていく。それは最高の喜びでもある。

さのっち：

では、いさどんは日々喜びを感じながら生きているのですか?

いさどん：

(苦笑)。。。喜びの概念だけれど、さのっちの言う喜びはどこにあるの?僕には悲しいことが沢山ある。人々は相変わらず大事をわかっていないし、政治を見ても悲しいことは沢山ある。しかし、悲しいことは自分が想っていることだから自分の未熟さだ。しかし、喜びというのはいただくことだよ。自分の想いを自分で叶えることではなくて、結果としていた

だくこと。しかし、自分を戒めるための愚かさや間違いは自らの問題だと捉えている。だから、何が喜びなのかというのはその概念によってまったく違って来る。僕の喜びとさのっちの喜びは全然違うよ。

さのっち：

いさどんの喜びは、「自分がこうなりたい」という想いを達成した時の喜びではもうなくなっているということですか？

いさどん：

何を望む必要があるの？この世界ではすべてが叶えられているよ。

ようこ：

なぜ何かになる必要があるの？

いさどん：

そう。必要なことは必要なようにすべてあるんだよ。必要なことというのは、都合が良い必要も都合が悪い必要も全部ある。

さのっち：

この間、エニアグラムのワークショップに行ったのですが。

いさどん：

そんなところばかり行って（苦笑）。

さのっち：

（苦笑）。。。人間を9つのタイプに分けて性格を分析するワークショップで、僕は「目標を設定してそれに邁進し、それを達成することに喜びを感じるタイプ」でした。

いさどん：

それは真ん中かそれより下くらいのタイプだよ。

さのっち：

エニアグラムの考え方はタイプによって上下はなくて、それぞれの個性なので、そのタイプの中でエゴが強いかどうかでもっと大きな人類の目標を達成出来るというものなのですが。

いさどん：

それはなぜ良い悪いというランクをつけないのかといたら、ランクをつけた時点で人間というのは自分をより高く評価して、そのの上に行くことを目的と考えるからランクはつけな

い。しかし、実際には魂の成長度合いによってランクはあるんだよ。宗教が教祖や経典を持つことによってそれを絶対視し、宗教の根本であるすべてが平等という世界を逸脱するのと同じで、その仕組みを考えた人はそのあたりを加味して序列がないということを行っているのだと思う。それで、それがどうしたの？

さのっち：

今のいさどんの話聞いていて、いさどんから観える景色と自分が想っていたことは全然違うなと思い、いさどんの視点を採用するならここに来るしかないと改めて感じました。

いさどん：

自分というものを今からどこに持っていくのかと考えた時に、自分を消滅させて、僕流に言う「自分を自由に解放してあげる」というところに持っていくのか。それとも、自分を消滅させずに自分の目標を持ち、その達成感を得るところに持っていくのかは、どちらも高まっていくという表現になる。

さのっち：

魂の上ではどちらを選択してもいいということですか？

いさどん：

そう。どちらも高まっていくということだからね。ところが、高まりの質が全然違う。一方は自分をあり続ける状態になる。

さのっち：

エゴをむしろ活かしていく。

いさどん：

そう。しかし、もう一方は自分をなくしていく方なんだよ。

さのっち：

それはまったく違いますね。

いさどん：

同じに見えてもまったく違う。そこには上下はない。ただ何を選ぶのかということだよ。

さのっち：

このメンバーであるということは、いさどんの言う「自分をなくす方を選ぶ」ということでいいのですか？

いさどん：

それは段階として色々だけれど、最終到達地点はそこだろうね。だから、一般の人にはまだその大事がよくわからない。

さのっち：

僕はここに住むということを考えると、さっきのエニアグラムのタイプのせいなのか、「あんなことがしたい、こんなことがしたい」とアイデアが浮かんでくるのですが。。

いさどん：

ここの組織の中ではそういうことが必要な分野もある。例えば今便利屋さんを始めようとしている。どういうサービスが出来るのだろうかとか、お客さんとどういう関係がつけられるだろうかというのは、社会に貢献することであり、この社会が行き詰まっていることに対する重要な解決策になると思っている。私たちは大切な役割としてこういった活動を始めるにあたって、色々と考えて吟味する必要がある。しかし、その延長に私たちがここを運営しているのかといたら、そんなことは全然思っていない。それは神様の意志だから、私たちの意志はそこにはない。たまたま縁があったからそういうことを始めるだけであって、流れが変わればたちどころにやめることにもなる。

だから、さのっちの言うことと僕の言っていることの両方が成立しているのがここだ。さのっちが言っているのは片方だけだよ。つまり、自分というものがあってそれが私たちを成長させ進化させるのがひとつの動きであり、そして、自分というものを取り去っていくことが進化でありそれが最終目的であるということも言える。

さのっち：

段階的に自分を強く出す時期があって、それから自分をなくす時期に入り、そして最終的に自分をなくすということですか？

いさどん：

それは同時進行だよ。だから、ただで精神を持ちながら進んでいくと、自動的に個人の想っていたような願望、例えば社会的に評価されるとか、個人の霊性が高まるとか、人と調和して幸せな家庭が築けるということは副産物のように与えられるわけだ。

今朝、エリーが僕に「今世の中がおかしくなっているけれど、この社会をどのように変革していったらいいと思いますか」と聞いてきた時に、僕は「そうではありません」と答えた。「それは 20 世紀型の手法であって、そのことが混乱を産み出すもとになっているのです」と伝えた。人々がもっと大きなスケールのところから自分を見て、自分が大きな舞台の中にいるひとりだと気づいたら、この世界をどうするのかという発想はなくなるはず。「この世の中をどうしたらいいのか？」と考える人間が沢山いたら、それが不調和を生むことになる。

しかし、全体がこういった目的のもとに動かされ、すでに全体の調和の目的の中に自分がいるのだということに気づいたら、その全体表現を個人が表現した時に調和の心が生まれてくる。

それはまさに太陽が昇る時の躍動的なエネルギー、日が沈む時の癒しのエネルギーのようなものだ。宇宙空間で月から昇る地球を見る。それは「日の出」ではなくて「地球出」。「満地球」と言われる美しいのちの星が昇っていくのを私たちが見せてもらって、「なんてすばらしいのだろう、なんて美しいのだろう」と自然にいざなわれるような形で、社会は進化し変革されて理想になっていく。人間が人間の価値観のもとに変革させていくという時代はもうそろそろ終わっていく。

さのっち：

いさどんに聞きたいのは、僕が関わっている活動で 2012 年に開かれる地球サミットに向けてのものがあるのですが、どう感じますか？

いさどん：

僕の視点からすると、「地球をどうしようか？」という発想でいる限り、地球は理想の世界にならない。地球の方が人間全員を合わせたって魂は大きいんだよ。

さのっち：

今のいさどんのような話をみんなに広めたいという想いが出てくるのです。

いさどん：

それが広まる必要があれば神様が用意される。人々の聞く心とそれにふさわしい自分の心があって、初めて役割が生きるんだよ。それからすると、人々に聞く心が出来ると同時にそれにふさわしい心を持つことが大切だ。

さのっち：

欲が邪魔をするということか。。

いさどん：

「自分がやりたい、やりたい」と思っていたら、そのこと自体が語る時のエネルギーを消耗させることになる。一番大切なのは、自分が必要とされて伝える時に、伝えるにふさわしい自分であるということ。「気づいたものはそのように生きていなさい。おまえが必要な時にはその舞台に立たせるから。そのために、そのようなものであり続けなさい」ということだ。だから、頭の中で「やりたい、やりたい」と想っているだけではなくて、まずは自分がそれを生きること。生活するということが大切で、そうすれば一番良い時に舞台に立たせてもらえる。

さのっち：

では、「僕がいさどんをプロデュースしよう！」とか考えなくていいということですよ。

いさどん：

(苦笑)。。。もし、さのっちにその能力があればそれにふさわしい場所が与えられるよ。「やりたい、やりたい」と言わなくても、必要であればちゃんと与えられる。でも、「やりたい、やりたい」というのは我だ。それは世の中を想う心なのか？自分がやりたいだけなのか？

さのっち：

それは後者ですね。。。自分を高めていけばそれに応じたものが与えられるということですね。

いさどん：

ただひたすらに自らを磨け。そうしたら、磨いた分だけ道は与えられる。これは当たり前の話で、簡単なことだ。しかし、さのっちは頭が良すぎて今までそういうことがわからなかった。

さのっち：

今日はいさどんの話が聞いて良かったです！

いさどん：

そこで言いたい。「いさどんの話が聞いて良かった」と言うけれど、僕はどれだけあなたにこういう話をしてきたのか。ここにいるメンバーよりあなたにはずっと時間をかけてきている。

さのっち：

ちゃんと聞いていなかったということですよ。。。。

いさどん

そうだよ。自分の我が強すぎるのだから。

さのっち：

ようこちゃんは隣で聞いていてどう想っていたの？

ようこ：

いつも同じ話をしているなと思っていた(笑)。

さのっち：

ようこちゃんは「いつになったらさのっちは変わるのかな？」と想っていたの？

ようこ：

それさえも想わなかったよ（笑）。

いさどん：

ようこちゃんからしたら、「さのっちはいつまでたってもわからない人だね」というところだろうね。ようこちゃんは僕が面談する時に常に隣にいてそういう話を聞いているわけだ。相手が違えば、話の分野も全然違ってくる。ところが、伝えていることはいつも同じなんだよ。その一番の理解者がようこちゃんだから、ようこちゃんはどこにいるわけだ。そうすると、さのっちがいかに理解していなくて、「いつまでたってもわからない人だね」ということだ。しかし、今の社会的評価からしたら、たしかにさのっちは能力が高い。

さのっち：

今回、仕事がなくなることでやっと、今までみんなが言ってくれていたことがわかってきた感じです（一同、苦笑）。仕事がなくなって、やっと実感出来ました！

いさどん：

もうこの話は終わり！

～そして、この後の大人会議でさのっちから「いさどんとの面談を受けて」という心のシェアがありました。次回のブログ「ただひたすらに自らを磨けPARTⅡ」に続きます～